

魔法騎士冒險譚ルチエリールタ

みなぎし

すい

【第
1
4
話】

【人物一覧表】

ルチエリールタ：騎士団長

クレーデイー：ルチエリールタの妹

チビイ：魔族

シャーヴェスラ：ヌノ皇女

シャーニューニダ：ムジート族

ニュンリン：混血魔族

嵐宮芽里：夕杜王女

浮世心愛：雷龍

アルノ・ヨナ：ポストゼランガロニア

王女

ワウー：犬

ファイル：アルデスナ王子

グドーナ：ゲドン族首領

エンリコ：カルナコマリ王子

ナキサン（35）：カルナコマリ女王

ナギスディー（44）：カルナコマリ

国王

仮面の殺人鬼：？

院長 男
門番 A
： 病院の院長

○ 船・個室（夜）

ルチエリールタ、チビイ、シャーベラ
スラ、シャーニューニダ、ニュンリン、
嵐宮芽里、浮世心愛、アルノ・ヨナ、
ワウー、フィルの一行が部屋にいる。
チビイ「あれ、結局ゼットシグマによる被害
はどうなったんだ？」

フィル「父さんによれば、国が総出で被害者
の救済にあたっているそうだから心配いら
ないだろう」

※ ※ ※

（フラッシュ）

会話するフィルとリチャクラオン。

※ ※ ※

芽里「これ以上悪化することはないでしよう
が、邪悪なエネルギーは十中八九レドニク
スに集まっているでしょうね。ですがゼラ
ムが何か仕込んだと思われる色々なものが、
ポストゼランガロニアの機械以外にもあり
そうで危険です。これら問題は解決してお

らず、なんとかするには奴らを倒すしかなりでしよう」

チビイ「あの情報屋も倒さないとな」

シャーニューニダ「はあ」

シャーニューニダ、息を吐き出す。

シャーニューニダ「我はそろそろこの旅から離脱したほうがいいかもな」

ルチエリールタ「え、何急に」

一同、シャーニューニダに視線を集め
る。

シャーニューニダ「我がいると妨げになる。

特にニュンリン。我と旅を続ける気か？

ニュンリンに限らないが、我が皆を裏切ら
ないか心配ではないのか？」

ニュンリン、悲しそうな顔をする。

ニュンリン「でも、仲間じやん」

シャーニューニダ「ふつ。お前からそんな言
葉が聞けるとはな」

シャーニューニダ、少し笑う。

ニュンリン「だつてあーし、仲間の温かさを

知ったもん！ そんな後で、出ていけなんて言えないよ！ シャーニューニダ、結構ぶつきらぼうでトゲあるけどほんとは優しいじやん！」

○（回想）闘技場・待機室

シャーニューニダ「はつきり言つて余裕だつたな。ルチエリールタが勝てたらなおさらだ。これでニュンリンも、多少は不安が消えただろ。あいつは我らからしたらそこまで強くない」

ニュンリン「シャーニューニダ、まさか、あーしのために」

ニュンリン、シャーニューニダをじつと見つめる。

（回想終わり）

○船・個室

シャーニューニダ「だが、目的のためならルチエリールタを殺そうとしたぞ」

ニュンリン「今は違う！」

シャーニューニダ「そうか」

ルチエリールタ、悲しそうな顔でシャ

ニユーニダを見つめる。

ルチエリールタ「シャーニューニダの顔が、
どこか寂しそうに見えた」

ヨナ「そろそろ寝るのヨナ。あと、ルチエリ
ールタ」

ヨナ、ルチエリールタを見る。

ヨナ「アレはフェイク画像だつたってことで
権力でごり押しといったから、変な噂とかも
う流れないのヨナ」

ルチエリールタ「決闘の意味！」

ヨナ「ごり押しのほうは念のためで、いくら
王族でもできるかは賭けだったから、決闘
に勝つ意味はあるのヨナ」

芽里「私たちはもう寝ますので」

ルチエリールタとニュンリン以外、寝
る。

ニュンリン「ね、しよ？」

ニュンリン、笑顔でルチエリールタに抱きつく。

ルチエリールタとニュンリン、ベッドインする。

ニュンリン、男性器をルチエリールタに挿入する。

ルチエリールタ「あんつ！」

ニュンリン、腰を振る。

ニュンリン「ルチエリールタつ、気持ちいいよつ！ すぎい！」

ルチエリールタ「私もつ！ 気持ちいい！」

ルチエリールタ、ニュンリンに突かれで何度も喘ぐ。

ルチエリールタ「太くてつ！ すつごいつ！ もつと激しくつ！」

ニュンリン「あ、イク！ 出るつ！」

ルチエリールタ「来てえつ！」

ニュンリン「好き！ 好きいつ！ あつ！」

出ちやうつ！」

ニュンリン、ルチエリールタの膣内に

射精する。

2人、体を震わせる。

ルチエリールタ「あ、ぎもぢ……」

ニュンリン「ね、まだまだしょ！」

ルチエリールタ「うんっ」

それから、長時間にわたって行為に及ぶ2人。

○村・住宅街

T「歌の国カルナコマリ」

人間がいる街中。一行、歩いている。

ニュンリン、ルチエリールタにくつつ
いている。

芽里「ここは歌の国、カルナコマリです」

チビイ「よかつたぜ、途中けつこう足止めく
らつてたけど、ゲドン族には襲われてない
みたいだな」

芽里「ええ。ですが……魔族の数が少ない氣
がします」

芽里、不思議そうな顔をする。

男 A 「もしかして、騎士団長様と王女様たちですか？」

男 が声をかけてくる。

ル チエリールタ 「はい」

男 A 「もしこの国にとどまるのであれば、注意してください」

ル チエリールタ 「それはどういう意味ですか？」

男 A 「この国の住民を殺戮している、通称『

仮面の殺人鬼』と呼ばれる人物のことです」

芽里 「知らない情報ですね、詳しくお聞かせ願えますか」

男 A 「はい。そいつが殺すのは、決まって魔族だそうです。そしてそいつらは集団で行動しています」

芽里 「そうですか、気をつけましよう」

○ 村の宿・個室

一行、荷物を置く。

芽里 「なにやらきな臭いですね。情報屋ヒュ

ールとゲドン族首領も警戒しなければいけませんし」

ルチエリールタ「うつ」

ルチエリールタ、膝をつき口を手で覆う。

芽里「どうしましたか」

ルチエリールタ「ちょっとと気分が。はあ、はあ。どつかでやられた?」

芽里「では、ゆっくり休ん——」

芽里、はつとした表情になる。

芽里「……」

芽里、表情を元に戻す。

ルチエリールタ「芽里さん?」

芽里「……ルチエリールタさん。あなたはしばらく戦闘、ていうか激しい運動はは禁止です」

ルチエリールタ「えつ?」

シヤーニューニダ「いう通りにしておけ。体調不良で戦闘して、もし……死んでしまつたらどうする。命は大事にしろ」

芽里「とにかく絶対安静です」

○ 同（朝）

T「1週間後」

ルチエリールタ「ぜんつぜん治なんいんだけ
ど……だるい」

芽里「どうしますか、今日王様に会いに行きますが、ここで待っていますか？ ですが、1人にして仮面の殺人鬼に狙われてはとてもよくありません」

ルチエリールタ「あ、王様に会いに行くの、ついていきますよ」

ファイル「俺たちがついているのがいいだらうな」

○ コマリ城前

一行、門の前に立っている。

芽里「身分証です。王族に用がありますので、

通してください」

門番A「これはこれは。どうぞ。エンリコ様

が中でお待ちです」

○コマリ城・王座の間

エンリコ、ナキサン（35）、ナギス
デイーと話をしている一行。

ルチエリールタ「今までと同じように王様
たちと話をして、エンリコ王子様を仲間に
した。これで王の子は全員揃い、5つ目の
マナライトをゲットした」

○コマリ王都・住宅街

エンリコ「よろしくね、僕はエンリコ。とも
に、レドニクスを討ち倒そう」
ルチエリールタ「はい。よろしくお願ひしま
す」

2人、握手する。

エンリコ「なんだ」

芽里「病院に行きましょう。そこでわかるは
ずです」

○ コマリ王都病院・院長の部屋

ルチエリールタ、椅子に座つて院長と向かい合つている。

院長「病気ではありません。これは——」

○ 同・待合室

ルチエリールタ、待合室に戻つてくる。

ニユンリン「どうだつた？」

ルチエリールタ「おめでただつて」

ニユンリン「え」

ニユンリン、固まる。目に涙を浮かべる。

ニユンリン「あーしなんかが、こんな幸せでいいの？」

ルチエリールタ「いいんだよ」

ニユンリン「ルチエリールタ……」

ニユンリン、涙を流しながらルチエリールタに抱きつく。

シャニユニダ「だが、これからどうすが

つ

シャーベスラ、シャーニューニダを
肘で突く。

シャーベスラ「しつ！」

シャーニューニダ「すまん」

シャーニューニダ、乱れた服を整える。

シャーニューニダ「ねえルチエリールタ」

ルチエリールタ「なに？」

ルチエリールタ「結婚しよう。あーし、ルチエリ
ールタの優しさで、この人しかいないって
思ったの」

ルチエリールタ「…嬉しい。わたしもそ
うだよ。わたしでよければ、お願ひします：
…！」

ルチエリールタ、にこつと笑う。
爆音が響き渡る。

芽里「外です！ 仮面の殺人鬼集団でしょ
うか？」

芽里、窓のほうを向く。

仮面をつけた集団が、少ない魔族の民衆を殺戮している。

芽里 「もう現れましたか」

フードやマントで身を包み、首に機械をつけている仮面の殺人鬼、一行の方を向く。

仮面の殺人鬼 「……やつと見つけたぞ、弟の仇。やはり、やつのいう通りだつた」

仮面の殺人鬼、一行に向かって手をかざす。

エネルギー弾が、シャーニューニダの

目前に迫る。

シャーニューニダ 「はあっ！」

シャーニューニダ、エネルギー弾を弾

く。

仮面の殺人鬼 「あのとき以来だな、騎士。まさか魔族といふとは。英雄になる器ではなかつたか」

ルチエリールタ 「え？」

芽里 「人間態にもかかわらず魔族を見抜いた。

おそらくこの人が仮面の殺人鬼、ありますね。そして、仮面は全員人間と見ました」

芽里、剣を構える。

仮面の殺人鬼、少し離れた距離からルチエリールタに剣を向ける。

仮面の集団たち、

ルチエリールタ「お前、さっきなんて言つた
⋮⋮⋮ 誰だか知らないけど、ニュンリン
をばかにしないで」

ルチエリールタ、しづかな怒りの表情
になる。

ニュンリン「下がつてルチエリールタ。お腹
の中の子を大事にして」

ルチエリールタ「うん」

シヤーザベスラ「ここは僕の出番だね⋮⋮⋮
ンリーテンタクル」

タコが仮面の集団をとらえていく。
仮面の殺人鬼、よける。

シヤーザベスラ「よけたか。強いな」

2つの勢力の戦闘が開始される。

芽里「凶悪な魔族だつたら殲滅できましたが、相手は人間。あくまで捕らえることを意識してください。散らばつて鎮圧します」

シャーニューニダ「ニュンリン、お前ルチエリールタを守れよ」

ニュンリン「シャーニューニダ……うん！」

ニュンリン、うなずく。

一行、散らばる。

ニュンリンとシャーザベスラ、ルチエリールタを守るように立ちふさがる。チビイとワウー、ふるふるしている。仮面の集団が、ルチエリールタたちに向かって攻撃を放つ。

シャーザベスラ「はあつ！」

ニュンリン「ルチエリールタに触るな！」

分厚い水の膜と糸が攻撃を防ぐ。

シャーザベスラ「この子には、いろいろ苦労をかけた。だからそのぶん幸せになつてもらわなきやいけないんでね……皇女として、かつこつけさせてもらおうかな」

チビイ「かっこいいなお前」

シャーベスラ「そうだろ?」

シャーベスラ、ニッと笑う。

○ 同・住宅街

芽里、フィル、心愛、シャーニューニ
ダ、ヨナが、各場所で仮面の集団を制
圧している。

○ 同・病院前

仮面の殺人鬼「ちいっ！」

仮面の殺人鬼のマントが、ロンリーシ
ャークの攻撃で破られる。

髪は束ねられている。

ルチエリールタM「ん? 今、何か既視感が」

ふつくらとした胸が見える。

チビイ「こいつ女か」

仮面の殺人鬼「なぜだ。なぜどこに行つても

人間は魔族に与している」

シャーベスラ「人魔共榮論を知らないのか

い？」

仮面の殺人鬼「なんだそれは」

ルチエリールタ「え、マジで知らない？」

ルチエリールタ、驚いたような表情になる。

仮面の殺人鬼「俺の弟は魔族に殺された。俺は夕杜の技術を借り、この時代に姿を表した。邪悪な存在に対抗するための聖なる騎士と協力するためにな」

ルチエリールタ「あ？ 何を言つている？」

チビイ「お前、怒つてるのか？」

ルチエリールタ「当然。わたしのニュンリンを侮辱した」

ルチエリールタ、仮面の殺人鬼を睨む
仮面の殺人鬼「だが、皇帝の体たらくを目に
して失望した」

ニュンリン「何言つてるのかわからぬよ。

イエヌダスラが書いた人魔共榮論を読んだ
ら？」

仮面の殺人鬼「なんだと」

仮面の殺人鬼、ピクリと動く。

仮面の殺人鬼「この体たらくを作ったのが、弟だと言いたいのか！ 弟を侮辱するな！」

シヤーザベスラ「え？ ジやあ、お前は」

仮面の殺人鬼「そうだ。英雄イエヌダスラの弟、イエフリスト……それが俺の名だ」

少しの間。

ルチエリールタ「御託はいい。消えろ」

シヤーザベスラ「お、おい！」

ルチエリールタの属性魔法が、仮面の殺人鬼に向かっていく。

爆音が響き渡り、煙があたりを覆う。

シヤーザベスラ「君は安静にって言われただろ……まつたく」

煙が晴れる。

仮面の殺人鬼が、姿を表す。

仮面が崩れ去る。中から姿を表すクレーディー。

ルチエリールタ「クレー……ディー？」

ルチエリールタ、呆然とする。